

| | |
|-------------------------------------|--|
| 科目名 | 国際発達ケア演習 Practice on Global Care for Development |
| 科目番号 | 01EA230 |
| 授業形態 | 演習 |
| 標準履修年次 | 1年次 |
| 実施学期・曜時限等 | 秋AB学期 受講生との協議により定める |
| 実施場所 | 共同利用棟B206 |
| 単位数 | 2単位 |
| 担当教員名 | 安梅勅江 Tokie Anme |
| ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA) | なし TA配置あり(2人) |
| オフィスアワー等 | 4B棟508 オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問すること。 anmet@md.stukuba.ac.jp |
| 授業の到達目標 (学習成果) | (1)学術雑誌やon lineの検索システムを用い、最新の論文の中から必要な該当論文を選ぶことができる。□ (2)選んだ論文をクリティークし、定められた時間内にその概要を他の学生に説明できる。 (3)他の学生が選んだ論文を事前に読みクリティークを理解し、当該研究の意義について討論できる。□ (4)論文の歴史的今日的意義および課題を説明することができる |
| 他の授業科目との関連 | 国際看護学 国際発達ケア特論 |
| 履修条件 | なし |
| 授業概要 | 国際的な視野を持ち、世界のさまざまな地域で生活する人びとの健康課題とそれに対応する具体的な発達ケアに関する課題と動向を把握するために、文献を講読し、人びとの健康を維持増進するためのよりよい実践方法や研究への適用の可能性について科学的根拠とともに探求させる。 |
| キーワード | 国際 生涯発達 ケア |
| 授業計画 | 1国際発達ケアの理念 2国際発達ケアにおける研究と実践 3国際発達ケア研究論文のクリティーク(1) 4国際発達ケア研究論文のクリティーク(2) 5国際発達ケア研究論文のクリティーク(3) 6国際発達ケア研究論文のクリティーク(4) 7国際発達ケア研究論文のクリティーク(5) 8国際発達ケア研究論文のクリティーク(6) 9国際発達ケア研究論文のクリティーク(7) 10国際発達ケア研究論文のクリティーク(8) 11国際発達ケア研究論文のクリティーク(9) 12国際発達ケア研究論文のクリティーク(10) 13国際発達ケア研究論文のクリティーク(11) 14国際発達ケア研究論文のクリティーク(12) 15国際発達ケア研究論文のクリティーク(13) 16国際発達ケア研究論文のクリティーク(14) 17国際発達ケア研究論文のクリティーク(15) 18国際発達ケア研究論文のクリティーク(16) 19国際発達ケア研究論文のクリティーク(17) 20まとめ |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | 授業時に示す課題についてレポートを作成すること。 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 復習は必ず行うこと。また、宿題を課す。 |

| | |
|-------------------------|--|
| 成績評価方法 | <p>レポート課題: 国際発達ケア研究の評価</p> <p>評価項目</p> <p>(1) 問題の設定 A~A+: 背景がわかりやすく述べられ、問題設定が既存の研究レビューに基づいて明確にされている B: 背景の説明と問題設定が適切であり、既存研究のレビューがなされている C: 背景と設定が説明されている D: 背景、設定のいずれかが説明されていない</p> <p>(2) 論旨の展開 A~A+: 論旨の組立て、展開に創意工夫がみられる B: 論旨の展開が明確である C: 論旨は理解できるレベルにある D: 論旨が不明確である</p> <p>(3) 結論の導き方 A~A+: 独創性が見られ、結論には説得力がある B: 明確な結論を導いている C: 論旨の展開と結論の間に矛盾はない D: 結論は唐突である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aのうち特に優れたものをA+とする ・それぞれC以上を満たすことで合格とする ・最低の評価(評点)を最終評点とする。たとえば、Aが2つ、Cが1つするとき、最終評価はCとする、など |
| 教材・参考文献・配布資料等 | 特になし |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | 授業中の活発な参加を期待する。 |